

令和 3 年度
事務事業評価シート
(学校教育課)
(学校給食共同調理場)

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目 次

1 教育委員の活動	11
2 授業の充実	
（ 1 ） 理科支援員の配置	12
3 特別活動の充実	
（ 1 ） 小・中学校作品展の開催及び音楽交歓会の開催	13
4 体育・健康教育の充実	
（ 1 ） バイキング給食の日	14
（ 2 ） 学童スキー大会の開催	15
（ 3 ） 大会派遣費補助事業	16
5 生徒指導の充実	
（ 1 ） 教育相談室設置事業	17
（ 2 ） 生徒指導委員会の充実	18
6 キャリア教育の推進	
（ 1 ） 職場体験・職業講話	19
（ 2 ） 人財育成事業	20
7 特別支援教育の充実	
（ 1 ） スクールサポーター配置の充実	21
（ 2 ） 中学校通級指導教室の開設（新規）	22
8 国際化、情報化に対応する教育の推進	
（ 1 ） 英語で元気なまちづくり事業	23
（ 2 ） ICT環境整備及び活用に向けた教職員の研修	24
9 研修の充実	
（ 1 ） 教職員ふるさと研修	25
（ 2 ） 初期層研修（新規）	26
10 教育環境の充実	
（ 1 ） 教育連携パートナーシップ協定事業	27
（ 2 ） 学校施設営繕・設備保全	28
（ 3 ） 教材備品等の整備	29
（ 4 ） 小学校統合事業	30
（ 5 ） 野辺地町立学校における働き方改革	31
11 その他	
（ 1 ） 教育広報の発行	32
（ 2 ） 給食費の未納対策強化	33
（ 3 ） 就学援助事業	34
（ 4 ） 新型コロナウイルス感染症への対応	35
12 学校支援活動	
（ 1 ） 学校支援推進事業	36
13 学校保健の取組み	
（ 1 ） 児童・生徒各種健診及び教職員健診	37

事務事業評価シート

施 策 名	教育委員の活動	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育委員の活動	担当者名	飯田 満

事業の目的・内容	教育長及び4名の教育委員が、毎月の定例会や行事等に参加することにより、地域住民の実情に応じた教育行政を展開する。			
事業の対象	教育委員・課長・課長補佐			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	167 千円	166 千円	383 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・教育委員会定例会への出席及び審議（毎月 年1 2回） （教育施策の一般方針の制定、規則・規定の制定、教育予算への意見等） ・小中学校へ学校訪問（年1回） ・小中高等学校の行事へ参加（入学式、運動会、卒業式等） ・その他、児童生徒に関する行事へ参加 ・総合教育会議等で町部局との懇談（年2回）			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・ 定例会においては、当町の教育課題についての提言や協議がなされている。 ・ コロナ禍により学校行事等への参加は限定されたが、小中学校の学校訪問では児童生徒や教員の取組みを評価しつつ、改善事項を学校に促している。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・学校への直接的な関わりもある活動をしているので評価できる。 ・小学校統合についての協議決定が保護者の意見で翻ってしまったので、もう少し在り方を考え、慎重に協議するべきだったのではないか。

評価委員意見(令和3年度)

・教育委員の活動が、野辺地町を創っていく小・中学生にとって良い方向性を生み出す原動力となることを希望する。 ・学校訪問では、貴重な御指導・御助言をいただき感謝している。 ・小中学校への学校訪問について、年1回ということで改善事項を学校に促しているということであれば、同年度内で改善確認のための2回目の訪問もあれば、問題等の早期解決に繋がるのでは。 ・野辺地町の教育の発展のために、これからも活動をしてほしいです。

事務事業評価シート

施 策 名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	理科支援員の配置	担当者名	藤谷 俊徳

事業の目的・内容	理科の観察・実験活動の充実を図るため、観察実験のアシスタントとして、観察・実験活動に使用する設備等の準備、調整、片付けや試薬等の調整、調査を行う理科支援員を設置する。			
事業の対象	町内小学校			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	1,117 千円	1,161 千円	1,184 千円

事業の実績・成果等 (数値)	○理科支援員の配置 理科支援員1名を町内小学校に配置。3年生から6年生の観察実験のアシスタントをする。 月：馬門小 火・水：野辺地小 木・金：若葉小 ○実績 3年生 28時間(音と震えの関係について調べる実験の補助 など) 4年生 24時間(ペットボトルロケットを使った実験の補助 など) 5年生 80時間(ヨウ素液を使ってでん粉の有無を調べる実験の準備、学習補助 など) 6年生 69時間(二酸化炭素の有無を石灰水を使って調べる実験の補助 など)			

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
	自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
	評価説明及び考察、課題	令和4年1月に実施した数研式標準学力検査C R Tの当町小学校の理科の結果においては、ほぼ全ての観点において全国比を上回った。今後も事業を継続し、観察・実験を通して子どもたちの興味関心を高めるとともに、思考力の育成に努めていきたい。	
	今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	B	A	A	－

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

評価委員意見(令和3年度)

・専門の支援員がいることで担任教師の力強い助けとなり、児童にとっても良い学びの時となっていると思う。

・授業だけでなく、実験・準備・片付け、さらに備品の整理等にも御支援いただき感謝している。

・担当課の評価どおりに成果が出ているし、担任の先生の負担軽減に十分役立っている。

・結果が出ている事業なので、継続してほしいです。

事務事業評価シート

施 策 名	特別活動の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	小・中学校作品展の開催及び音楽交歓会の開催	担当者名	小又 美穂

事業の目的・内容	小中連携事業の一環であり、特に音楽交歓会においては、幼稚園や高等学校と交流する機会を設けたりしている。			
事業の対象	町内の幼児、児童生徒			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	0 千円	50 千円	50 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で音楽交歓会が中止となった。 ・作品展については、絵画・版画合わせて263作品から入賞作品142点が選ばれた。 (令和4年度は音楽交歓会の中止が決定している。)			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	作品展については、入賞作品を各学校に移動展示し、来校者に見てもらう場となっている。 音楽交歓会については、発声・楽器の使用という特性もありコロナ禍での実施は見送っている。		
今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	A	B	B	A	A

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・音楽に関しては、コロナ感染症の影響を多大に受ける。1つの場所に大勢集まらないような催し物は不可能に近い。

・今後も継続をお願いします。

・コロナ禍で実施は大変な作業とは思いますが、1つでもできることから行ってほしいと思います。

・児童・生徒・地域住民が触れ合える貴重な機会なので、継続していただきたい。また、自分の学校以外の音楽を聞くことにより、関心も高まるだろうと考えられる。

評価委員意見(令和3年度)

・コロナ禍でも作品展が実施されているのは大変だけれども、今後も継続していただきたい。

・音楽交歓会については、開催方法・内容等を見直し、コロナの状況でも実施可能な会の在り方を探っていきたい。

・音楽交歓会の中止は残念ですが、今後も必要な事業です。

・音楽交歓会の中止は残念だが、コロナが収まらない現状では仕方がないです。作品展は子どもたちの努力の成果を目で見ることが出来る貴重な機会なので、継続を希望します。

事務事業評価シート

施 策 名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校給食共同調理場
事務事業名	バイキング給食の日	担当者名	浜野 裕子

事業の目的・内容	・バランスのとれた食事で、自分にあった量を決められた数の中で選択し、容器にきれいに並べることが出来る。 ・苦手な食べ物でも食べる努力をし偏食を直す。 ・食事のマナーを学ぶことができ、修学旅行の事前学習として役立てられる。 ・栄養教諭による出前授業は、小・中学校全てで実施し食育指導を実施する。			
事業の対象	バイキング給食：小学校5年生、中学校3年生 食育指導：小中学校児童生徒			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	— 千円	— 千円	— 千円

事業の実績・成果等（数値）	・栄養教諭による食育指導状況 野辺地小学校 7回 若葉小学校 6回 馬門小学校 3回 野辺地中学校 3回 ・バイキング給食実施回数 2回 野辺地小学校（5年生） 野辺地中学校（3年生） 若葉・馬門小学校（合同）は、コロナ感染対策のため令和4年度に延期			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要がある。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上っている	
評価説明及び考察、課題	【成果】食育指導の実施で偏りのない食事のとり方等を理解したり楽しく食事がとれるよう学び苦手なメニューも食べるようになる。選択する楽しみや食事量・組合せを考えたり食事のマナーや友達を思いやる心を学ぶことができる。 【課題】メニューの種類が必要になるためコスト面が課題となっていたが、R2から給食費が改正になり栄養士のメニューの工夫によりバ工信を楽しんでもらうことができる。コロナ感染対策として体育館に変更したり廊下を活用して実施している。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・小学5年生が対象なのは適正であると感じる。ただ、「無制限に食べ放題」というものとは違うということをきちんと指導内容に入れた方がよい。 ・食育は人にとって大事なことなので、食を学ぶ機会として評価できる。 ・今回中学生のバイキングも実施されることになり、小学校で楽しかったバイキングを思い出した生徒もいたと思います。小学5年生のバイキングも今後継続してほしいです。 ・このまま続けていってほしい。コロナに負けず続けていけるというのはすごいと思う。

評価委員意見（令和3年度）

・ウイズコロナの時代に入り、人の交流も増加する中、どのようにして自分の身を守りながらバイキングをしていくのかを学べる時でもあるので、今後も続けてほしい。 ・継続してほしい。 ・担当課の評価どおり、今後も継続してほしい事業です。 ・子どもたちにとって食の喜びを感じる日となるであろう企画なので、続けてほしいです。予算内で職員の工夫や、保護者の方の給食費の値上げへのへの快い協力もありがたいことだと思います。

事務事業評価シート

施 策 名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学童スキー大会の開催	担当者名	杉山 拓

事業の目的・内容	①町内学校の冬季体育（学校スキー）の交歓を通して、運動能力の向上を図る。 ②大会参加を目指して練習・努力する過程を通して、人間性の育成を図る。 ③ルールに従い培った能力を表現する活動を通して、正しい競技参加能力を育てる。			
事業の対象	小学4年、5年、6年生			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	95 千円	5 千円	190 千円

事業の実績・成果等（数値）	教育振興会主催の事業であり、運営に係る費用は町からの補助金となる。 令和3年度（令和4年2月18日予定）は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止とした。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分にできている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価			
評価説明及び考察、課題	上記の理由により大会を中止しているため評価できない。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	C	B	B	A	B

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・コロナ対策による6年生のみの大会はいたしかたなかったと思う。大会自体はあっという間に終了し、少し残念な感が残る。 ・子どもたちも、他の学校の子と真剣に競技する場となっているので、評価できる。 ・コロナ禍での実施でしたが、いろいろ工夫しながら本当にできてよかったです。北国でのスポーツ・スキーを楽しめるチャンスでもあるので、今後も継続してほしいです。 ・昨年は6年生だけの競技で大変寂しく残念だった。コロナ禍とはいえ、開催してくれたのは有り難いが、今年また4年生以上での実施となれば、お手伝いが集まるのかなど不安も少しある。
--

評価委員意見（令和3年度）

・今後も継続してほしい。 ・開催方法・内容等を見直し、コロナの状況でも実施可能な大会の在り方を探していきたい。 ・今後小学校は統合していくので、学童スキー大会がどうあるべきか検討する時期ではないか。 ・事業自体は素晴らしいことなので継続してほしいです。しかし続けるための様々な面での協力が厳しくなっていることは問題なので、なんとか解決の糸口を見つけてほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	大会派遣費補助事業	担当者名	藤谷 俊徳

事業の目的・内容	町内の小学校又は中学校に在籍する児童生徒を対象に、スポーツ・文化活動における大会へ参加するための費用を補助する事業。 保護者の負担を軽減するとともにスポーツ・文化活動の振興を図るものである。			
事業の対象	小中学校、スポーツ少年団など			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	377 千円	1,766 千円	3,280 千円

事業の実績・成果等（数値）	(中学校)県 大 会：吹奏楽、ハンドボール、陸上、柔道、駅伝、スキー 東北大会：ハンドボール、陸上 全国大会：スキー ……14大会 1,156,446円 (スポ少)九州連盟創立40周年記念全国選抜野球大会（福岡県） 全国中学生空手道選手権大会（山口県） JOCジュニアハンドボールオリンピックカップ（福島県） JOCジュニアオリンピックカップ 未来くん杯全国中学生空手道選抜大会（京都府） 全国中学生ハンドボール選手権大会（富山県） ……5大会 609,148円 補助対象経費【補助率】 参加料【2分の1】、交通費【2分の1】※指導者引率者は全額 宿泊費【2分の1】※指導者引率者は全額、その他プログラム購入費等			
---------------	--	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、開催される東北大会や全国大会も徐々に増え、令和2年度と比べて本事業の活用実績は増加した。 子どもたちが大人になり指導者となったとき、本事業を活用して全国大会等に出場した経験、得た技術を次世代に伝えるために、本事業を継続していきたい。		
今後の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・大会への補助は本当に助かると思う。コロナ禍で大会が激減したが、この事業は存続させるべき。 ・優秀な成績と共に県外の大会等は費用がかさむので、補助は大変有り難い。 ・担当課の評価のとおり。 ・子どもたちのモチベーションにもつながるので、ぜひ継続して支援して欲しい。
--

評価委員意見(令和3年度)

・スポーツもお金がかかるため、ぜひ今後も補助をしていただき、子どもたちが成長するのを見守ってほしい。 ・公平感を大切にして、支援を継続してほしい。 ・担当課の評価にある「得た技術を次世代に伝えるため」ということで、補助を受ける保護者や生徒にしっかりアピールして事業を継続してほしい。 ・大変ありがたい事業です。他県で活躍する子どもたちが増えることにより、野辺地町のアピールにもつながると思います。
--

事務事業評価シート

施 策 名	生徒指導の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育相談室設置事業	担当者名	中野 良喜

事業の目的・内容	町勤労青少年ホーム内に野辺地町教育相談室を設置し、教育相談や不登校支援等を実施している。			
事業の対象	児童生徒・保護者・教師			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	4,319 千円	3,653 千円	5,148 千円

事業の実績・成果等 (数値)	○教育相談室の設置 主任教育相談員1名・相談員1名のほか、スクールソーシャルワーカーにより、教育相談に対応。相談受付：月～金、9時～15時。 ○相談実績 面接相談（来室・訪問等）小学生25 中学生117 高校生5 他49 計 196名 電話相談 小学生28 中学生203 高校生3 他16 計 250名 総計 446名 ○通室活動実績 中学生4名の通室があった。4名合計年間215日の出席があり、学校出席日数に換算されている。 ○スクールカウンセラーの配置 ・予算については、県費負担。配置拠点校及び配置人数は1名。 ※年間配置数は野辺地中は36日、野辺地小11日、若葉小20日、馬門小12日。 ・延べ相談者数は、野辺地中94名、野辺地小8名、若葉小21名、馬門小7名。			
-------------------	---	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	町内の教育相談や不登校及び適応指導に対応する施設であり、町健康づくり課をはじめ各関係機関や町内各学校とも必要に応じて連携協力を図り、相談者の悩みの軽減に取り組んでいる。 相談内容やその背後にある環境に複雑なものが多くなってきており、長期的な対応も必要なケースもあることから指導員の負担が大きくなっている。		
今後の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	A	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・学校に原因があるのではなく、人間関係に煩わしさを覚え、学校に足が向かない児童も増えてきた。相談室に通室することが、今後の人生に必ずプラスになることを保護者に啓発して行ってほしい。 ・思春期は悩みが多いことと、スマホ等の普及で多種多様な相談があるので、重要な事業だと思う。 ・相談後の更なるフォローアップの必要を感じています。さまざまなケースがあると思いますが、良い方向性を示していただきたいと願っています。 ・教育相談室と学校の先生、保護者との連絡がうまくとれているのか見えてこない。相談室の実績だけでなく、その後の報告もあればこの事業の様子が見えてくるのではないか。

評価委員意見(令和3年度)

・スマホ等の活用時間の増加も加わり、本当に心痛む相談がある。今後もこの事業を進めていただき、子どもだけではなく、保護者等との関わりの方向も考えていく必要が絶対あると思われる。 ・対応困難なケースが増えている。管理職との情報交換だけでなく、一般教員との研修機会共有等、接点を増やすことも御検討いただきたい。 ・悩みは必ず誰にでもあるので、必要な人に寄り添ってほしいと思います。また、SNS専門の相談員の配置等も必要であると思います。 ・様々な原因で学校に行けない子どもが多くなっている今だからこそ必要な事業であり、もっと積極的に取り組んでいくことをアピールしてもよいと思う。
--

事務事業評価シート

施 策 名	生徒指導の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	生徒指導委員会の充実	担当者名	中野 良喜

事業の目的・内容	小・中・高で連携し問題行動のある児童・生徒を指導、見守りしていく体制を整える。 (町教育振興会事業)		
事業の対象	小・中・高生徒指導教諭・警察・上北教育事務所・教育委員会・健康づくり課		
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算
	金額	10 千円	10 千円

事業の実績・成果等 (数値)	令和3年5月～令和4年1月 年5回生徒指導委員会を開催。 小学校・中学校・高校・警察・上北教育事務所・教育委員会・健康づくり課の職員で情報交換を行い、児童生徒の問題行動に関し情報共有することにより、問題解決に町ぐるみで取り組んだ。 夏季休業中の生活における注意喚起や、交通安全運動に合わせた登校指導の実施、スマホやインターネット利用状況の実態について確認した。		
-------------------	---	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	町関係各課、町内小中高等学校、教育委員会、警察等情報共有及び連携ができたことにより生徒指導上の課題について協働して取り組んだりすることができ、問題行動の予防につなげることができた。 この会でしか手に入らない情報等も多数あるので、今後多様化する生徒指導上の諸問題に迅速に対応するため必要不可欠と考える。		
今後の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	B	B	A	A

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・情報提供や共有は校長会等で充分されている。生徒指導上の共有課題を探り、町全体として取り組んでいこうとの施策の提言が必要なのではないか。 ・子どもたちを正しい道へ導く事業ということで、今後もより良い活動を期待します。 ・コロナ禍の中で集まってる話し合いなど大変だと思います。今後もあらゆる角度からの見守り体制をしていくことを望んでいます。 ・子どもたちの状況・様子を共有できる場があるのはとても大事で必要であり、予防につながっているとのことなので、更に継続して行ってほしい。

評価委員意見(令和3年度)

・野辺地町の町民全体が、周りの人たちを思いやることによって問題行動のある子どもたちを見守れるように、心配りができるようになっていければと思う。 ・各種団体間での情報共有を継続してほしい。 ・担当課の評価どおり。 ・継続して情報の共有に努めていただき安全な町づくりをしてほしい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	キャリア教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	職場体験、職業講話	担当者名	飯田 満

事業の目的・内容	一人一人の子どもが自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成を図るため、小中学校等の教育活動を支援する。			
事業の対象	中学校、小学校			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等 (数値)	新型コロナウイルス感染症対策のため、実施方法等を変更した。 ・野辺地中学校：大迫傑選手講演会（オリンピックマラソン選手） ・野辺地小学校：校外学習、町探検 ・若葉小学校：校外学習、町探検 ・馬門小学校：校外学習、町探検			
-------------------	---	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	新型コロナの影響により、小中学生の職場体験、高校生のインターンシップ等実施が困難であったが、別の方法で行うなど、各校で工夫を重ねて教育活動を行っている。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	B	A	B	B	A

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・講演にしても職場体験にしても、コロナ禍においては、なかなか実施困難な取組である。ICTを活用したキャリア教育を考えるとときでもある。 ・子ども自身がどんな大人になりたいのか考えることができる事業だと思うので、もっと活発な活動も必要と思う。 ・コロナ禍の中での工夫が必要になっていくのかなと思います。今後も継続を希望します。 ・働く大人・卒業生の講話会などとても有意義であると思う。同じふるさとで育った自分の先輩の話というのは、考え方を整えるきっかけになるし、頑張る意欲向上につながると思う。
--

評価委員意見(令和3年度)

・コロナ禍であっても、良きモデリングになる人たちに、たくさん接するチャンスがあり、生きるための良き学びの場となるので、継続を希望する。 ・各校での実践も大切だが、町内全小中学校対象のオンライン講演等も検討できないか。 ・本事業では、講話を充実し実施することで、子どもたちの価値観やものの考え方に変化を与えられると思っています。 ・野辺地中学校の大迫選手の講演会は、聴いている生徒たちの心に強く印象に残った出来事だと思う。
--

事務事業評価シート

施 策 名	キャリア教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	人財育成事業	担当者名	藤谷 俊徳

事業の目的・内容	町内の高等学校に在籍する生徒を対象に、長期休業中に民間の学習塾講師を招致し、短期講座を開催する。生徒の学力を向上することで町内高等学校の4年制大学進学率の向上を図り、町内高等学校の魅力づくりに寄与する。 また、学力向上支援事業として外国語によるコミュニケーション能力を養うための短期間海外研修に係る費用を助成する。			
事業の対象	町内の高等学校に在籍している生徒			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	561 千円	1,122 千円	1,122 千円

事業の実績・ 成果等 (数値)	○高校生短期講座		
	夏期：令和3年7月26日（月）～30日（金）		
	【参加者】2年 野高 3名、西高4名	計 7名	
	3年 野高12名、西高5名	計17名	合計24名
	冬期：令和4年1月4日（火）～8日（土）		
	【参加者】1年 野高6名、西高16名、町外高校3名	計25名	
	2年 野高2名、西高12名	計14名	合計39名
	【学習内容】国語、数学、英語		
○海外研修 休止			

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	参加した生徒からは「解説が分かりやすかった」、「解き方のコツを学んだ」、「普段と違った環境で学ぶことができて有意義だった」など肯定的な意見が大半であり、生徒の学力向上に寄与していると思われるので、引き続き事業を実施していきたい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	A	A	B	A	B

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・学習塾講師を招き短期講座を行う取組は良かったと思う。広く多くの生徒が参加できるような宣伝が大事だと思う。

・事業に参加する生徒が増えたので評価できる。

・参加した生徒たちの保護者の声もぜひ聞いてみたいと思います。

・人財育成事業を受講した生徒たちのその後がどうなったのか。きちんと将来につながっているのか。生徒たちのアンケートも見てみたい。

評価委員意見(令和3年度)

・野辺地町から将来日本を元気にしてくれる人財が育つことを願う。次回ぜひ保護者の声を聞いてほしい。

・対象を小中学校へも拡大できないか。

・担当課の評価どおり、生徒には学校で受ける勉強とは全然違うということをもっとアピールし、参加者が増えてほしい。

・毎年成果を出している事業なので、更に強固なものにしてもらいたい。できれば将来野辺地町のため貢献できる生徒の育成にもつながればと思う。

事務事業評価シート

施 策 名	特別支援教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	スクールサポーター配置の充実	担当者名	藤谷 俊徳

事業の目的・内容	町内学校において障害をもつ児童生徒や学習が遅れがちな児童生徒等の、特別な支援を必要とする児童生徒の生活や学習を支援するためのスクールサポーターを設置する。			
事業の対象	町内小・中学校			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	15,139 千円	13,810 千円	21,744 千円

事業の実績・成果等 (数値)	○配置人数の推移					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	野辺地小学校	3 人	4 人	4 人	5 人	5 人
	若葉小学校	3 人	4 人	5 人	5 人	5 人
	馬門小学校	3 人	2 人	2 人	2 人	1 人
	野辺地中学校	2 人	3 人	2 人	2 人	1 人
	○R2年度特別支援教育支援員スキルアップ研修参加状況→中止のため研修資料配布のみ					
	○R3年度特別支援教育支援員スキルアップ研修参加状況→11名(内新規採用者2名)					

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	町内学校においては、特別な支援が必要な児童生徒は年々増加傾向にあり、学校が要求するスクールサポーターの人数も増えてきている。令和3年度においても増員している。今後も、企画財政課と調整しながら、できる限り学校の要望に応えていきたい。 研修に関しては、町教育委員会主催の特別支援教育支援員スキルアップ研修にスクールサポーターを参加させ、発達障害等の児童生徒に対する学習支援の実践的な知識などを習得した。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・スクールサポーターのスキルアップ研修は毎年実施してほしい。支援といっても1つの方法だけではないので。
・スクールサポーターのクラスでの存在は大変重要で、今後も継続していく必要がある。
・今後も継続していただきたい。
・子どもにとって担任もスクールサポーターの方も同じ先生なので、学びの機会があるのは資質の向上にもつながるので大事だと思う。

評価委員意見(令和3年度)

・スクールサポーターの必要度は年々増加している。予算的に各学校の増員はなかなか大変だと思うが、各学年に1人ずつの配置を希望する。
・小学校は配置数不足である。学級数（特別支援学級含む）と同じ配置をお願いしたい。
・教育の支援について、十分充実していると思うので、今後も継続してほしい。
・頑張っていることはすごく伝わります。

事務事業評価シート

施 策 名	特別支援教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	中学校通級指導教室の開設（新規）	担当者名	佐々木 萌

事業の目的・内容	障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的としている。これまで小学校のみであったが、特別支援教育の充実を図るため、新たに中学校にも開設した。			
事業の対象	町内及び近隣町村の中学生			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	0 千円	277 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	通級による指導を行った生徒は、自校生3名（全員2年生）であり、近隣町村からの通級生はいなかった。 クラスでの学習や部活動等に影響のないよう、指導時間を設定し実施している。 開設に伴い、指導を行う教室を新たに設けたため、必要な物品を購入し環境の整備を行った。 ・教卓 1 台 ・パーテーション 4 台 ・書庫 1 台 ・教職員用パソコン 1 式			
---------------	---	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	通級による指導を受ける生徒のプライバシーに配慮し、物品としてパーテーションを購入し、指導環境の整備を行った。 学習面や生活面の生徒それぞれの苦手さを軽減できるよう、個別に指導を行った。1名は通級による指導の終了となり、残り2名は次年度も継続して通級による指導を実施することとなった。 小学校から継続で通級による指導を実施する生徒もいるため、小学校との連携も重要である。また、他の学習や部活動等があるため、限られた時間の中での指導が求められる。		
今後の 方向性	☐ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☒ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	A	B	B	A	－

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

評価委員意見（令和3年度）

・中学校での指導を続けてほしい。

・町内で中学校課程においても、特別支援を受けられるのは有意義だと思います。

事務事業評価シート

施 策 名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	英語で元気なまちづくり事業	担当者名	小又 美穂

事業の目的・内容	英語指導を行う外国語指導助手（ＡＬＴ）の派遣事業。小学校からの英語コミュニケーション能力育成により中学校への円滑な移行を図るとともに、幼少期からの英語指導により英語教育に順応しやすい児童生徒の育成を図る。			
事業の対象	児童生徒、一般町民			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	5,570 千円	6,382 千円	11,237 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和3年10月から11月にかけて外国青年招致事業（JETプログラム）による外国語指導助手2名が来町した。 小学校3校に1名、中学校に1名を配置し、外国語の授業において担当教員の補助を担っている。 また、英会話クラブ（図書館サークル）の活動に参加し、大人世代の英語学習の場となっている。			
---------------	---	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	授業での指導の他、休み時間や給食時間等の授業外の活動でも子どもたちとの交流を深め、英語コミュニケーション能力の向上に寄与したものと思われる。 英語学習のほか、町の国際交流を担う人材としても最大限に活用するため、積極的な活用を検討していく。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

- ・ネイティブな英語を聞かせたいのは「聞く耳」を作るためだと思う。そういう点でのＡＬＴの活用を望む。
- ・可能であれば、英語専科教員を増員して子どもたちが学べる時間が増えると思う。
- ・更に更に頑張ってもらいたい。

評価委員意見(令和3年度)

- ・今まで以上に英語力が必要となっていくので、英語に興味を持ち、好きになれるような出会いと学びの場となっていくことを望む。
- ・英語専科教員とうまく連携し、授業に取り組んでくれていると思う。
- ・英語に親近感を持ってもらい、普段使いできるようになればいいです。
- ・生の英語に触れあえるチャンスのある子どもたちはとても幸せだと思う。もっともっと英語の先生と触れあえる機会が増えることを望む。

事務事業評価シート

施 策 名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	ICT環境整備及び活用に向けた教職員の研修	担当者名	杉山 拓

事業の目的・内容	国は「GIGAスクール構想」を掲げ、児童生徒1人1台端末の実現とそれらの高速大容量の通信を可能とする環境の構築を推進するため、これらに係る補助金が新設された。 本事業は、子供たちの資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を図るとともに、活用のための研修を実施するものである。			
事業の対象	町内小・中学校			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	105,801 千円	7,502 千円	7,958 千円

事業の実績・成果等（数値）	■令和3年度 整備概要 特になし。（整備は前年度に一旦完了している。） ■令和3年度 開催研修 ・野辺地町立学校ICT研修会（R3.8.2） ①授業におけるiPadの活用 ②オンライン授業の方法 ③管理担当者研修 ■学習用端末活用状況調査（R4.6実施） ・活用頻度（担当する授業数に占める活用する授業数の割合）に関する設問 1 割未満 6/41 ※小学校低学年は書くことが大事。機器操作の指導に時間を割けない。 1～3 割程度 23/41 ※必要なとき（効果的に）に使用している。 4～5 割程度 9/41 ※よく活用する教科：国語・数学（算数）・社会・技術家庭・保健体育 6 割以上 3/41 ※よく活用する教科：英語・道徳			
---------------	---	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	学校におけるICTは、「とにかく使えばよい」というわけではなく、授業において、より効果的に指導するためのツールとして使うべきものであるため、活用状況調査の結果(上記)は低めに見えるが、十分に活用できていると感じており、先生方の創意工夫により多様に活用されている。 一方で、未だに活用に対して後ろ向きな先生方もいるため、理由を明らかにしフォローしていくことが重要と考える。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	A	B	B	A	B

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・貸出用のWi-Fiルーターは、休校が決まったらすぐに貸し出せるような仕組みを整えてほしい。 ・ICTを有効利用するための、研修を充実することが先ず必要と思う。
--

評価委員意見（令和3年度）

・コロナ禍で対面授業が実施できない現状を踏まえ、今後もICTの利用増加が見込まれる。今後もぜひ研修の場を実施してもらいたい。 ・ICTについては、町教委からも各家庭、保護者に啓発してほしい。 ・実績や評価を見るとICTを活用する分別が大変だと思いますが、有効活用されていると思います。 ・これから絶対に必要な事業であると思う。ただし、ただやるのではなく職員共通の考えを持っていただくよう行ってほしい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	研修の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教職員ふるさと研修	担当者名	藤谷 俊徳

事業の目的・内容	新たに当町に着任した教職員等を対象に、当町の歴史や文化、特産品などを紹介することで、当町に興味を持ってもらい、当町の特性をよく理解してもらうことで、社会科の地域学習をはじめとした指導力の向上を図る。			
事業の対象	・教諭等として新たに任用された職員（初任者） ・野辺地町に初めて着任した教職員 ・5年以上野辺地町を離れていた教職員			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	2 千円	2 千円	2 千円

事業の実績・成果等（数値）	○視察場所 歴史民俗資料館、行在所、JAゆうき青森、漁業協同組合、常夜燈公園、みちのく丸、藩境塚、まかど温泉スキー場（ハッチョウトンボ観察）、松浦食堂（昼食：松浦さんによる郷土料理） ○講師：歴史を語る会 会長 鈴木幹人、教育委員 野坂幸子 ○研修参加者：教職員9人 ○【アンケート結果】大変有意義だった5名、有意義だった3名、まあまあだった1名、もの足りない0名、非常に不満足0名			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	当日は雨で、急遽ルートの変更を行ったが、講師の方のおかげでトラブルなく終えることができた。 アンケート結果については、「産業や歴史について、総合や社会科で活かそうだ」、「子どもたちがどのような土地で育ち、どのようなことを学んでいるかを知ることができてよかった」など、すべて肯定的な意見であった。 今後も継続してアンケートを実施して内容を改善していきたい。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・野辺地町に住んでいる子どもたちが、自分の町をよく理解している先生というのは、尊敬できると思うので評価できる。 ・継続を希望します。 ・野辺地の歴史を知ってもらい活かしていただければ、これほど嬉しいことはない。
--

評価委員意見（令和3年度）

・教職員に野辺地町のことを知ってもらう唯一の研修なので、今後も継続を希望する。 ・たいへん良い研修だと思う。 ・野辺地町の歴史や文化の知識を深め、学校教育の場で活用してもらえるのは嬉しく思います。 ・これからも続けてほしいです。町を知っていただき、他市町村へ行った時に野辺地町の魅力をPRしてほしい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	研修の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	初期層研修（新規）	担当者名	中野 良喜

事業の目的・内容	初期層（新採1年目～3年目）の教諭を対象に、教材研究及び授業展開に関する指導について先（1週間程度）を見越した指導・助言を行う。（特に算数科）			
事業の対象	初期層（新採1年目～3年目）の教諭（小学校学級担任）。			
事業費	年度	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算
	金額	0千円	0千円	0千円

事業の実績・成果等（数値）	初期層の教諭が自信をもって授業の指導に当たることができるよう、授業構成のアドバイスを行った。（火曜日：若葉小、木曜日：野辺地小） 昨年度、初期層の教諭（初任者を含む）で病気休暇を取得した教諭はいない。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	各訪問授業の様子を観てみると、指導・助言を行い始めてからの授業は、以前よりも児童の声に耳を傾ける指導が増えてきたように思われる。その結果、良好な学級経営が行われつつある。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	B	B	B	A	－

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

評価委員意見（令和3年度）

・初期層の教諭への研修が、不安解消につながっていくことを望む。

・たいへん良い研修だと思う。

・アドバイスを受けられた先生方にアンケート等を取り、より良い助勢ができると良いと思います。

事務事業評価シート

施 策 名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育連携パートナーシップ協定事業	担当者名	藤谷 俊徳

事業の目的・内容	町教育委員会（小学校・中学校）と高等学校が連携・協力し、活力ある個性豊かな教育活動をより一層推進することを目的として、教育連携パートナーシップ協定を県立野辺地高等学校及び八戸学院野辺地西高等学校それぞれと平成30年7月に締結した。 また、連携事項を円滑に推進するために「野辺地町教育連携推進会議」を設置した。会議は必要に応じて開催し、連携事項について報告・協議等を行う。		
事業の対象	教職員及び児童生徒		
事業費	年度	令和2年度決算	令和3年度決算
	金額	0千円	0千円

事業の実績・成果等（数値）	● 第1回野辺地町教育連携推進会議 令和3年10月12日（中央公民館） ● 主な連携事項 ・小学生対象の寺子屋事業、中学生対象の体育実技演習（野辺地高校） ・のへじ祇園まつりでの山車の制作及び運行（野辺地西高校） ・高校生に対する人財育成事業（学力向上事業、競技スポーツ強化支援） ・在学青年ボランティア会（地教委）等		
---------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	教育連携パートナーシップ協定を締結することで、連携の目的や内容をより明確にすることができている。 令和3年度は、野辺地高校のPRを目的に、PRポスターを作成し、部活動や進学先・就職先の紹介をした。 今後も連携推進会議の中で、現在実施している連携事項を見直しながら、必要に応じて新たな連携事項について検討、実施していきたい。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・今後も継続が大事な事業。 ・コロナ禍でも何か工夫してできればと思いますが、現実には中々難しいと思います。何かの活動情報等お互い知ってもらうのも良いかと思います。 ・高校生のパワーを披露する場であると思うので、もっと積極的に活動してもらって、高校生も自分の魅力に気付ける場になってほしい。

評価委員意見（令和3年度）

・地元の子どもたちがこの事業によって良い交流ができるので、今後も工夫を加えながら継続してほしい。 ・オンラインでもよいので、交流の機会を増やしていければ良いと思う。 ・良い事業で、今後も継続してほしい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校施設営繕・設備保全	担当者名	杉山 拓

事業の目的・内容	教育施設の維持管理及び修繕工事を実施し、安全・安心な学校づくりを目指している。			
事業の対象	各小・中学校			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	58,668 千円	140,337 千円	39,076 千円

事業の実績・成果等 (数値)	■実施工事 ○小学校 ・若葉小学校消火栓配管補修工事 全4区間 合計¥1,965,000円 ・馬門小学校コンセント増設工事 ¥352,000円 ・野辺地小学校エアコン機器等設置工事 ※R2からの繰越事業 ¥37,213,000円 ・若葉小学校エアコン機器等設置工事 ※R2からの繰越事業 ¥35,200,000円 ○中学校 ・野辺地中学校エアコン機器等設置工事 ※R2からの繰越事業 ¥72,050,000円 ・野辺地中学校講堂トイレバリアフリー化工事 ¥2,061,015円 ※上記の事業費欄の金額は、これらの工事費のほか、工事に係る設計・監理業務費、学校施設の維持管理費を含んでいる。			

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	限られた予算の中で児童生徒の安全を最優先に改修等を実施している。 改修にも限度があり、全小学校施設における老朽化への対応策が課題とな っている。		
今後の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	A	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・エアコン設置は野辺地町はとても早かった。教育関係に予算を振り向けていることに感謝している。 ・環境改善され、有難く思います。 ・依頼も多く、あれもこれもとはいかない中で、工夫しながら限られた予算内で実行していただき感謝しています。

評価委員意見(令和3年度)

・エアコンがあることで、子どもたちの健康が守られ学びの場も快適になっている。電気代も心配なので、よく管理できるように指導は必要と思う。 ・限られた予算とはいえ小学校は老朽化が著しく、かなり我慢している部分もある。 ・今年は特に暑い日が多いように思ったので、エアコンの設備があって助かっています。今後も継続してよろしくお願いします。
--

事務事業評価シート

施 策 名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教材備品等の整備	担当者名	小又 美徳

事業の目的・内容	教育課程にもとづき授業を実施するうえで、児童・生徒の心身の向上や能力向上のために必要な備品及び学校運営に必要な備品を購入するもの。 また、古くなった既存の備品や故障等で使用できなくなった備品を廃棄し、新規購入するもの。			
事業の対象	教員及び児童・生徒			
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金 額	4,027 千円	1,216 千円	1,361 千円

事業の実績・成果等 (数値)	教材備品等購入費（消耗品として購入した教材を除く） 野小 462,080円 若小 605,765円 馬小 56,980円 野中 90,800円 毎年11月末の来年度当初予算編成へ向け、各小中学校が必要な備品を取りまとめ教育委員会へ提出。教育委員会は学校が要望した備品について担当者から聞き取り、必要性を検討、精査してから町部局へ予算要望している。			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	当初予算作成の際、各学校へは必要性を精査した要望をお願いしているが、必要な備品であっても査定により削減される場合が多い。 現在、令和5年度の若葉小学校と馬門小学校の統合に向け、学校間で移管する備品が決定したところである。		
今後の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・エクセルでデータ管理されているということで、情報共有が今後適切な管理につながっていくことを評価します。

・統合に向けて少しずつ進められていることに感謝です。

評価委員意見(令和3年度)

・コロナ禍で必要な備品等が購入されて大変良いと思う。エクセルでの備品の管理にも期待する。

・データ管理は、各小中学校共通で継続してほしい。

・予算の確保は大変だと思いますが、学校側が必要だと判断した物について、今後も協力していただきたいと思います。

事務事業評価シート

施 策 名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	小学校統合事業	担当者名	飯田 満

事業の目的・内容	「野辺地町立小学校統廃合基本計画」を基に、町立小学校3校の規模適正化と複式学級の解消を図るため、令和5年4月に馬門小学校を若葉小学校に統合することとした。			
事業の対象	野辺地町立小学校			
事業費	年度	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算
	金額	6千円	93千円	1,417千円

事業の実績・成果等（数値）	①「野辺地町立小学校統廃合基本計画」の策定 小学校統廃合基本計画素案の住民説明会を、中央公民館他3小学校で開催した。 ②小学校統廃合準備委員会の設置 小学校統廃合を円滑に行うために必要な準備、検討・調整を図るため、教職員・PTA・自治会等による小学校統廃合準備委員会と4専門部会（総務、教育課程、生徒指導・施設設備、PTA）を組織した。 ・小学校統廃合準備委員会…3回開催（総合調整） ・総務部会…3回開催（式典・記念誌、歴史・伝統の保存を協議） ・教育課程部会…2回開催（児童・教職員交流事業等を協議） ・生徒指導・施設設備部会…4回開催（体操服、放課後対策、通学バス等を協議） ・PTA部会…2回開催（保護者交流計画等を協議）			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・各専門部会では、児童・保護者・地域の方々が統合して良かったと思えるように、諸課題を協議している。 ・令和3年度は、令和4年度に具体的に取り組む記念誌や通学方法についての方向性を決定することができた。 ・最終的に新校舎を建設しての3校統合を目指しているが、令和4年度に行う校舎耐力度調査の結果により、判断することになる。		
今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	A	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・（委員が）評価できる事業ではないと思う。十分検討を重ね、進めてもらいたい。 ・統廃合準備委員会が各部門ごとに設置され、有益な意見交換や内容確認ができています。 ・今後もよろしくお願いします。 ・これから先、子どもたちが少なくなるのは分かりきっているので、早く進めてほしい。保護者の方々の関心がなぜ薄いのか。そこを気付かせることも大事なのではないかと思う。

評価委員意見（令和3年度）

・10年後の2032年に、野辺地町に何人の児童生徒がいるのだろうかと考えるほどに、人口減少が進んでいる。町の財政を踏まえながら、未来に向けて最善のやり方が見つければ良いと思う。 ・教頭先生方、一部の人に負担が偏らないように、町教委からの支援等を確実に実施してほしい。 ・担当課の評価のとおり。
--

事務事業評価シート

施 策 名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	野辺地町立学校における働き方改革	担当者名	藤谷 俊徳

事業の目的・内容	令和2年9月に策定した野辺地町立学校における働き方改革プランに則り、長時間勤務の更生を図ることで、教職員の健康及び福祉を確保し、意欲と能力を最大限発揮して、子どもたちに効果的な教育活動を行うことができるようにする。			
事業の対象	教職員			
事業費	年度	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算
	金額	0千円	0千円	0千円

事業の実績・成果等 (数値)	主な取組			
	- 学校閉庁の実施(令和3年8月10日～13日) - 教職員の意識改革のため、他市町村の業務改善に係る好事例の周知 等			
	時間外労働時間集計[4か月平均(R4.4～7月)]			
	- 小学校 1人あたり月31.2時間(昨年度同時期33.0時間) - 中学校 1人あたり月47.8時間(昨年度同時期52.4時間)			

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	時間外労働時間の昨年度同時期との比較では、小・中学校ともに減少しているため、効果はあると思われる。 今後も継続し時間外労働の減少に努め、子どもたちへの効果的な教育活動につなげたい。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・中学校では部活動における時間外労働が大きく占めるのであるなら、コーチ等は一般人に任せられるような体制にシフトしていかなければ、働き方改革は進まない。 ・時間外労働時間が減っていないということで、先生方の心と身体の健康のために改善されながら、事業が継続されることを願います。 ・担当課の評価のとおり。 ・中学校の先生働きすぎ。仕事が多すぎての残業なのか、ただただ時間をつぶすための残業なのか。経済的にも学校は何時までと決めた方がよいのではないか。
--

評価委員意見(令和3年度)

・とにかく先生方は忙しい。少しは改善されているかもしれないが、まだまだ大変だと思われるので、さらに良い環境での働き方ができるようにしてほしい。 ・中学校部活動の在り方については、国・県の動向に即して移行を進めてほしい。 ・本課題については全国的なものであり、良いモデル案を探し、少しでも残業時間が改善されるように継続してほしいです。 ・成果が出ていると思います。教職員の皆様にも会計にも負担をかけないよう、学校を閉める時間を決めてみてはどうか。

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育広報の発行	担当者名	小又美穂

事業の目的・内容	平成23年度から、教育施策及び行事等を紹介するため、教育広報「のへじの教育」を発行。 令和2年度からは年1回の発行としている。			
事業の対象	町民一般（各家庭に毎戸配布）			
事業費	年度	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算
	金額	35千円	71千円	81千円

事業の実績・成果等（数値）	令和3年度は令和4年4月1日に第15号を発行（6ページ）。 掲載内容 ・統合に向けた取組 ・教育委員会主要事業 ・昨年度の学校行事紹介（小中学校、高等学校） ・各少年団、子ども会、みんなの教室募集案内			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要がある。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・町広報や学校だよりでは紹介しきれない、教育委員会の業務や学校の活動について掲載することができ、教育委員会の透明性に努めている。 ・紙面スペースの関係で紹介する事業に限りがあることから、年度によって、紹介する事業を変えている。		
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・住んでいる町の教育現場の情報を知るための重要なアイテムの1つと認識しますので、今後もよろしくお願いします。 ・今後も継続をしてほしい。

評価委員意見（令和3年度）

・年1回の発行なので、内容が濃くなっていると感じられる。今後も一つの情報発信のツールなので、継続を希望する。 ・町の広報との差別（区分）化を図りながら、継続してほしい。 ・今後も継続して発行をよろしくお願いします。 ・せっかくの良い事業なのに、あまり浸透しているように思えないのがもったいないです。
--

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校給食共同調理場
事務事業名	給食費の未納対策強化	担当者名	川畑 正人

事業の目的・内容	学校給食費の滞納額を減少させる。 ・平成25年度以前分は、死亡・所在不明者や所得が低い者が多いので不納欠損処分を考える。 ・児童手当の充当により滞納額減少に努める。 ・要保護世帯分は、学校長から上北県民局に納付依頼し年度末に全額徴収する。 ・準要保護世帯は、給食費免除としている。			
事業の対象	小・中学校の給食費未納 63世帯、滞納額 145,530,360円(R3.4.1現在) 昭和63年度から平成25年度未納世帯			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等(数値)	徴収対策：日中の徴収可能な世帯は時間内訪問 ※時間外手当 12,000円/月 ・毎月電話催促、臨戸訪問による徴収、納付書の送付 ※年4回催告書送付 ・年児童手当 1,820,960円を給食費に充当 ・新規利用者に「給食利用申込書」の「児童手当から引落しを承諾する」を記載依頼 ・給食費滞納世帯へ少額納付書の送付 (1枚2,000円×5枚) ・R 3 調定額35,261,500円 - 収入額 35,148,240円 = 未納額 113,260円 児童・生徒分 徴収率 99.67 % (未納額はR4.6月支給の児童手当で収納済み)			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果	R 3 年度 滞納徴収額 410,700円 (H4年度～R3年度分) 年度末未納額 14,226,320円 コロナ禍による戸別訪問ができない。	
	課題	不納欠損処分ができるよう今後対策を考える。(協議中) 保護者の死亡や住所不明による徴収不能世帯が多い。	
今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	A	B	A	A

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・昨年度の未納額はわずかだったので、近年の取組は非常に良いと思われる。 ・過去分の徴収は大変だと思いますが、色々な対策で成果が上がっているので評価します。 ・今後も継続を希望します。 ・成果が素晴らしいです。

評価委員意見(令和3年度)

・野辺地町の財政が楽ではないので、なかなか全校無料にはならないと思われる。いろいろな形で集金されることにより、改善されていくとよい。 ・今後も工夫しながら継続してほしい。 ・十分な対策ができています。 ・コツコツと努力しているのが伺えます。

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	就学援助事業	担当者名	小又 美穂

事業の目的・内容	経済的な理由で町立小・中学校への就学が困難な家庭及び特別支援教室等で就学している児童生徒世帯への就学援助事業。 支給費目は、学用品費、通学用品費、体育実技用具費、新入学学用品費、校外活動費など。		
事業の対象	野辺地町内の小中学校に通う児童生徒及び町内から他町村学校に通う児童生徒		
事業費	年 度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算
	金 額	5,542 千円	5,220 千円
			令和 4 年度予算
			10,507 千円

事業の実績・成果等 (数値)	○就学援助費 ・要保護 対象：小学校2名、中学校3名 援助額34,679円 ・準要保護 対象：小学校64名、中学校54名 援助額4,681,701円 ○特別支援就学奨励費 対象：小学校9名、中学校3名 援助額：503,576円		
-------------------	---	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で修学旅行の行先等の変更により、例年より援助額が若干減少した。 今後も学校と情報共有を行いながら、援助が必要な世帯に支援を行っていく。 なお、令和5年度入学者分から、新入学学用品費の入学前支給の実施を予定している。 特別支援教育就学奨励費については、特別支援学級の在籍数が増加傾向にあり、援助額が増えていくことが考えられる。		
今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

- ・全ての子どもたちは平等に教育を受ける資格があると思うので、重要な事業だと評価します。
- ・今後も継続してほしい。

評価委員意見(令和3年度)

- ・コロナ禍でますます生きづらくなり、戦争によって物価も下がらず、生活に困っている人がいる中、この援助事業で助けられているのは嬉しいことである。
- ・この制度に助けられている家庭は多く、今後も継続が必要である。
- ・必要な人に必要な援助が少しでもできれば助かる家庭があるので、継続してほしいです。

事務事業評価シート

施 策 名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	新型コロナウイルス感染症への対応	担当者名	飯田 満

事業の目的・内容	国内における感染が拡大していることから、学校における対応や国庫補助金を活用して感染症対策に係る物品等を購入した。			
事業の対象	小中学校ほか保護者			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	8,720 千円	366 千円	2,752 千円

事業の実績・成果等（数値）	①学校における対応 感染防止対策の観点から、運動会や修学旅行は日程の短縮で行い、各校との交流事業は中止とした。 ②感染症対策のための学習環境の整備、衛生用品等の購入（国庫補助金） 学校等における感染症対策等支援事業（令和3・4年度で3,118千円） デジタル機器、環境衛生用品を購入 ③スクール・サポート・スタッフの学校配置 感染症対策により教員の業務が増加することから、教員をサポートする人員を県事業により各小学校に1名を配置した。 ④メール配信システムの活用 令和2年度より小中学校の保護者及び教職員、学校関係者にメール配信できる新システムを導入し、感染症対策の徹底を呼び掛けた。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・令和2年からの感染症対策を参考に、日常の教育活動は工夫により継続することができ、学校行事も臨機応変な対応で行った。 ・保護者へのお知らせやお願いなど、メール配信システムを活用することにより即座に伝えることができた。		
今後の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	B	A	B	A	B

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・野辺地町の子どもたちの間で、コロナに対する感染予防が徹底できているので評価します。 ・今後もコロナウイルスの流行が心配されます。継続を希望します。 ・努力は伺える。
--

評価委員意見（令和3年度）

・健康管理の必要性あり。今後も継続を希望する。 ・コロナの見通しは不透明であり、継続をお願いしたい。 ・今後も継続して必要な対策をよろしくお願いします。

事務事業評価シート

施 策 名	学校支援活動	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校支援推進事業	担当者名	佐々木 萌

事業の目的・内容	学校が地域と一体となって子どもを育む、地域とともにある学校づくりを目指す。地域住民による学校支援活動の充実と一層の活性化を推進する。			
事業の対象	各学校			
事業費	年度	令和 2 年度決算	令和 3 年度決算	令和 4 年度予算
	金額	274 千円	59 千円	62 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・学校支援ボランティア活動を各学校ごとに実施 登下校の指導(見守り隊)、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、水泳教室での指導、環境整備などさまざまな学校支援活動を地域の住民等の参画を得て実施した。			
	野辺地小学校 見守り隊 2 1 名 若葉小学校 見守り隊 1 5 名 馬門小学校 見守り隊 8 名 野辺地中学校	学校支援 3 1 名 学校支援 2 6 名 学校支援 9 名 学校支援 1 5 名		

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
	自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
	評価説明及び考察、課題	見守り隊や学校支援ボランティアとして学校支援活動を行ってくださる方へ、町費によりボランティア保険に加入している。 見守り隊については、町広報で隊員の募集を定期的に行った。しかし、見守り隊員に高齢の方が多く状況は続いている。	
	今後の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		A	A	A	B	B	A

評価委員意見(参考:令和2年度の評価意見)

・見守り隊へのメッシュベストは夏から秋にかけて、非常に助かったと聞いている。 ・ボランティアの方が見守っていただいて、子どもたちも安心して通学しています。新規のボランティアを増やす為の事業も今後新たに必要だと思います。 ・担当課の評価のとおり。 ・積極的に協力していただく皆さんにただただ感謝しかない。ただ高齢化の波を打破する何かアイデアも必要ではないか。

評価委員意見(令和3年度)

・高齢化は止められないが、若い方々にも働きかけ、子どもたちを見守っていくことができるようになればよい。 ・子どもたちのため、継続をお願いしたい。 ・見守り隊の方には感謝いたします。協力できる方が増えるような活動ももっと必要だと思っています。 ・見守り隊に関しては広報でのお知らせだけでは響かないと思う。一人一人と顔を合わせ、お願いしていくのがベストだと思う。
--

事務事業評価シート

施 策 名	学校保健の取組み	担当課名	学校教育課
事務事業名	児童・生徒各種健診及び教職員健診	担当者名	小又 美穂

事業の目的・内容	学校保健安全法第13条に基づき実施し、児童・生徒・教職員の健診等により適正な健康管理を行い、健康で充実した学校生活を送るため実施する。			
事業の対象	児童、生徒、教職員及び次年度就学予定の幼児			
事業費	年度	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算
	金額	4,565 千円	3,708 千円	4,051 千円

事業の実績・成果等（数値）	○児童生徒の健診 ・（全学年）内科、歯科、耳鼻科、眼科、尿検査 ・（小1・3・5年、中1・3年）心電図検査 ・（保護者からの同意を得られた小5・6年、中2・3年）貧血検査 ○教職員健診等 ・1日ドック・1日健診者以外の教職員を対象に7月に一斉に実施した。 ・公立学校共済組合のシステムを利用し、教職員向けのストレスチェックを8月と11月に実施した。 ○就学時健診 令和4年度に小学校に入学する幼児（53名）を対象に令和3年10月16日及び10月27日に実施した。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	各種検診については、教委担当者が養護教諭部会に参加して実施方法等の要望の 吸い上げを行っている。 令和3年度は2回にわたり教職員のストレスチェックを行い、高ストレス者が 数名いたものの面接指導を希望した者は0名であった。教員の負担軽減に取り組 むとともに、面接指導を受けやすいような体制づくりも必要と考えられる。		
今後の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	木村委員	玉川委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	R2参考
		B	A	A	B	B	B

評価委員意見（参考：令和2年度の評価意見）

・コロナ対策のために就学時健診を2日とっていると聞いた。会場を学校に変えた場合、数グループに分けることが可能になり、1日で完了することができるのではないか。 ・今後も適切な健康管理をよろしくお願いします。 ・今後も継続をお願いします。
--

評価委員意見（令和3年度）

・担当課の評価のとおり。 ・担当課の評価のとおり、今後も継続してよろしくお願いします。
